

4. 実証研究の具体的な実施内容及び実施方法等

- ① 能勢小中学校の学校運営協議会に設置された環境創生部による整備事業では、学校施設内の親水広場、展望棟、学びの丘を整備して、豊かな環境で学べる喜びと本物に触れる体験ができるような機会を設けている。4月14日、同協議会主催で学校施設の一部である学びの丘の一般開放を実施した。再編整備される前は、「大阪府民牧場」として桜の名所にもなっており、学校再編後4年目にして初めて一般開放に踏み切ることができた。学校施設内の親水広場、展望棟、学びの丘を整備して、豊かな環境で学べる喜びと本物に触れる体験ができるような機会となった。今後、11月17日には、学びの丘親水広場の周辺作業、12月1日には、樹木の植樹を行った。(モミジ・サクラ・ドウダンツツジ) 学校内や学びの丘などに保育所・幼稚園・能勢小学校・能勢中学校・能勢高校が参画する仕組みづくりを行うことを通じて、幼児・児童・生徒の意欲や実践力の向上が期待できる。と同時に、地域住民が全幼児・児童・生徒と触れ合う機会をつくり、ふるさと能勢町を誇れる人材育成プログラムが期待できる。(資料 能勢ささゆり学園コミュニティ・スクールだより 令和2年3月号 参照)
- ② 能勢小中学校の学校運営協議会において、学校が地域の方々に助けてほしくて困っている状況を外部にうまく発信し、外部からの支援ができるような支援体制を構築していくために取組を進めてきた。個別支援が必要な授業支援、給食や清掃の支援、児童会生徒会と協議会委員による協働のあいさつ運動等である。
今年度の新しい取組として、学び支援部では、7月より教職員の業務軽減・働き方改革の一環として、地域コーディネーターを中心にボランティア約30名の方々にお世話になり、日替わりで3名から4名の給食配膳ボランティアを行っていただいている。学校給食を媒体にして、地域の方々が児童生徒と触れ合い、コミュニケーションを深めるよい機会となっている。また、1週間連続毎日、同一学年がランチルームでの給食にしているので、配膳や片づけ等の時間が省け、おまけに昼休みの時間が多めにとれるため、昼休みが長くなり、児童にとっても教職員にとっても大変有意義な取組となっている。
また、安全・生活部では、部会員の自主的な取組として、隣町の先進的な実践を行っておられる丹波篠山市を視察し、その取組から発展し、毎月第3水曜日午前7時30分から8時10分まで「あいさつ運動」が定番化されるようになった。生徒会ともタイアップし、「しあわせ守り隊」とも連携し、全町的な取組につなげてきたい。行事イベント部では小学校マラソン大会、中学校マラソン大会での立ち番などの取組をしていただいた。特に中学校は、旧東郷小学校校区に出向き、けやきの里をスタート・ゴールにしていることから、今年度は、けやきの里協議会から生徒たちに大根の炊き出しをしていただき、マラソン終了後に身も心も温まる支援を受けた。
- ③ 中高の両校長が組織内で加配教員の位置づけを明確にし、中・高校種間連携がより有意義なものとなるよう、首席を中核に据え、校務分掌や活動日の時間保障など同僚性を生かした組織運営ができるように連携体制を変更した。
組織内での連携が広がり、深まるように中高兼務発令について、従前は「国・数・英」としていたが、平成31年度からは「体育・技術」に変更した。家庭科は、月に数回中学校の教員が高校へ、高校の教員が中学校へ相互に授業を参観し、次の授業展開に関する体制づくりを進めている。また、教科別研究組織を解体し、9つのテーマ別グループ(健康と運動、食と農業、言語活動、グローバル英語、自主活動、情報とICT、歴史・文化・自然・観光、グローバル能勢、支援)に改編し、今の課題に即した「カリキュラム・マネジメント」が行えるような小中高一貫教育研究の構築をめざしている。(詳細は、後述 小中高一貫教育研究発表会を参照)
また、能勢高校のGS課題探究基礎講座・重点講座、SG基礎知識講座・重点分野講座の中で、能勢町の行政組織と連携し、能勢町地域連携公開講座を開き、町民と高校生が対話を続ける取組等を通して、高校生のキャリア形成や地域への貢献度を高める活動を支援してきた。能勢高校が能勢町にある存在意義や存在価値を大阪府・全国へ波及できる効果が期待できると考え取り組んでいる。

●町首長部局と能勢高校・豊中高校能勢分校との連続講座の開催

- (1) 第1回 5月22日(水) 「バリスタから見たドイツ人の環境問題へ取組み」
講師：中村 靖彦氏 (ドイツ在住バリスタ、DJ)
- (2) 第2回 6月5日(水) 掛川市における日本版シュタットベルケの取組み」
講師：久保田 崇氏 (静岡県掛川市 副市長)
- (3) 第3回 6月11日(火) 「能勢町にとってのSDGsは」
講師：榎原 友樹氏 (株)イー・コンサル 代表取締役)
- (4) 第4回 7月2日(火) 「ドイツ視察に向けて シュタットベルケの取組み」※1
講師：川又 孝太郎氏 (環境省大臣官房 環境計画課長)

※1 (注)シュタットベルケ (STADT WERKE) とは...

ドイツにおける電気、ガス、水道、交通などの公共インフラを整備・運営する自治体に関わる公益企業(公社)のこと。シュタットベルケ

はドイツ語で直訳すると「町の事業」を意味する言葉。いま、日本の多くの自治体でこのシュタットベルケお手本としたエネルギー事業を糸口に、地域の課題を解決し、地域活性化につなげようという動きが広がっている。

(5) 第5回 7月20日(土)「ドイツはどんな国?1」

(6) 第6回 8月19日(月)「ドイツはどんな国?2」

講師: Anja Sliwa 氏 (甲南大学 ドイツ語講座師)

●ドイツブリロン市へ

9月2日(月)～9月7日(土)の6日間、2年GS課題探究重点講座受講生4名がドイツで実態調査を行った。昨年度より取組み、調査を進めてきたシュタットベルケの視察を目的とし、能勢町主催のもと、能勢町長、町職員とともに能勢町・能勢分校連携視察団が、ドイツへ向かった。行程は以下のとおりである。

	午前	午後
2日(月)	出国関空→アムステルダム→デュッセルドルフ→ブリロン	
3日(火)	ブリロン市庁舎訪問	シュタットベルケ視察
4日(水)	ギムナジウム訪問・交流学习	ブリロンの森訪問・植樹 ブリロン郊外視察
5日(木)	ギムナジウム再訪・交流学习 ／ブリロン市庁舎再訪(能勢町)	デュッセルドルフ視察
6日(金)	帰国デュッセルドルフ→アムステルダム→7日(土)	

●11月1日には小中高一貫教育研究発表会を開催。内容は以下の表のとおり。

今年度は、能勢ささゆり学園で開催。午前中は、能勢高校生のSGH(スーパー・グローバル・ハイスクール)国指定5年目最終年度の取組報告を行った。

1つ目の報告は、マレーシア・ボルネオ島サバ州コタキナバル近郊、マレー半島クアラルンプール近郊プトラマレーシア大学(UPM)を訪問し、マレーシアでの熱帯雨林がオイルパームプランテーションを学び、毎日消費している食品や日用品に使われているパームオイルをもとに、環境保護と経済発展、どうバランスを取ればいいのかについて議論してきた。

2つ目の報告は、ポストSGHとして、今年度は、前述のとおり。能勢町と高校生が地方創生について考える連続講座を開催してきた。内容は、自治体とともに高校生と住民が再生可能エネルギーについて考え、能勢町長及び町職員と高校生と高校教員がともなってドイツ・ブリロン市への視察研修を行った。

帰国後、町長と高校生との意見交流、地域のイベント・高校の文化祭・能勢の高校を応援する会総会などでも発表。子どもたちの成長した姿を見ることができた。ただ、今後、高校生が町の施策にどれだけ関与し、責任を持って教育活動を展開していけるか?どのようにカリキュラムを組み、広げていくか。訪問してきた生徒だけの課題ではなく、同校の他の高校生にどれぐらい広めていけるかが課題である。また、高校生が小学生対象に、3学期、小学校5年生の社会科における「森林の働き的重要性を考え、森林資源の保護や育成のために、林業や国民一人一人の協力が大切であること」を話し合う単元において、ドイツで学んだ森林教育と能勢町がこれまで行ってきた森林行政について考える機会を持つ予定である。環境を守るために能勢町の行政や森林組合、地元の方々がどのような取組をしているのかを知り、高校生も小学生も自分たちができていることを考え行動できるような機会を創出したい。

時刻	内 容
10:20 ～ 12:00	<p align="center">SGH中間発表・ドイツ視察報告</p> <p>内容①; SGHマレーシア・海外実態調査報告 テーマ:「経済発展と自然破壊～マレーシア オイルパームプランテーションと森林破壊～」 日 程: 令和元年8月4日(日)～9日(金) 場 所: マレーシア ボルネオ島サバ州コタキナバル近郊、マレー半島クアラルンプール近郊プトラマレーシア大学(UPM) 内 容: マレーシアで熱帯雨林がオイルパームプランテーションに変わっていき、熱帯雨林が消滅しつつあります。「私たちが毎日消費している食品や日用品に使われているパームオイル。マレーシアの経済を支えるパームオイル。地球の貴重な財産である熱帯雨林の消失。環境保護と経済発展、どうバランスを取ればいいのか」サバ州を訪れ環境破壊と経済発展の様子を調査しました。また、UPMで講義を受け、大学生とディスカッションを行いました。これらの調査内容を発表します。</p> <p>内容②: ドイツ・ブリロン市 シュタットベルケ調査報告 「能勢町・能勢分校連携によるドイツ連邦共和国への視察研修」 テーマ:「能勢版シュタットベルケを考える～再生可能エネルギーと地方創生」</p>

		<p>日 程：令和元年9月2日（月）～7日（土） 場 所：ドイツ ノルトライン=ヴェストファーレン（NRW）州（州都：デュッセルドルフ） ブリロン市 内 容：能勢町長、能勢町職員と能勢分校生が、NRW州、ブリロン市、ブリロンの 高校を訪問。 ブリロン市及びデュッセルドルフでの、自治体所有の公益事業「シュタット ベルケ」や再生可能エネルギーの視察調査です。これらの調査に加え、能勢 分校生はブリロン市の高校生と交流を行い、ドイツの高校生が環境問題をど のように考えているか、地域にどのように貢献しているかを学び、報告しま す。</p>				
12：00 ～ 13：30	休憩	<p style="text-align: center;">おいしい給食</p> <p>旧小学校の自校調理方式とそのレシピを引継ぎ、平成28年4月から新たに「能勢 ささゆり学園」としての給食がスタートし3年半が経ちました。能勢産のお米・野菜・ 食材を多く使用し、調理員が愛情込めて手作りするスタイルと体に優しい味は、今も 昔も変わりありません。特に「野菜」の美味しさと量は半端ない！今回給食（昼食） 会場となる「ランチルーム」は、小中学校異学年の交流給食などで使用しています。 大きな窓からの秋景色とともに、能勢のおいしい給食をごゆっくりとお楽しみくだ さい。</p>				
13：30 ～14：20		<p style="text-align: center;">公開授業</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; vertical-align: top;"> <p>☆健康と運動グルー プ</p> <p>体育（小6）</p> <p>授業者 三宅 夕貴 （中【小専体育】） 辰巳 明子（小）</p> <p>場 所 第2体育館</p> </td> <td style="width: 25%; vertical-align: top;"> <p>☆食と農業グル ープ</p> <p>総合（小3・高3）</p> <p>授業者 梶谷 夏海（小） 鹿嶋 英滋（高） 齋藤 友貴（高）</p> <p>場 所 3-1 教室</p> </td> <td style="width: 25%; vertical-align: top;"> <p>☆言語活動グルー プ</p> <p>国語・古典（中2・ 高2）</p> <p>授業者 岡崎 紘（高） 伊藤 浩介（中）</p> <p>場 所 2-A教 室</p> </td> <td style="width: 25%; vertical-align: top;"> <p>☆グローバル英語グル ープ</p> <p>外国語（活動） （小4・中3・高2）</p> <p>授業者 山田 善紀（中） 望月 浩平（高） 北村 創（小） 谷 貞美（小）</p> <p>場 所 多目的室</p> </td> </tr> </table>	<p>☆健康と運動グルー プ</p> <p>体育（小6）</p> <p>授業者 三宅 夕貴 （中【小専体育】） 辰巳 明子（小）</p> <p>場 所 第2体育館</p>	<p>☆食と農業グル ープ</p> <p>総合（小3・高3）</p> <p>授業者 梶谷 夏海（小） 鹿嶋 英滋（高） 齋藤 友貴（高）</p> <p>場 所 3-1 教室</p>	<p>☆言語活動グルー プ</p> <p>国語・古典（中2・ 高2）</p> <p>授業者 岡崎 紘（高） 伊藤 浩介（中）</p> <p>場 所 2-A教 室</p>	<p>☆グローバル英語グル ープ</p> <p>外国語（活動） （小4・中3・高2）</p> <p>授業者 山田 善紀（中） 望月 浩平（高） 北村 創（小） 谷 貞美（小）</p> <p>場 所 多目的室</p>
<p>☆健康と運動グルー プ</p> <p>体育（小6）</p> <p>授業者 三宅 夕貴 （中【小専体育】） 辰巳 明子（小）</p> <p>場 所 第2体育館</p>	<p>☆食と農業グル ープ</p> <p>総合（小3・高3）</p> <p>授業者 梶谷 夏海（小） 鹿嶋 英滋（高） 齋藤 友貴（高）</p> <p>場 所 3-1 教室</p>	<p>☆言語活動グルー プ</p> <p>国語・古典（中2・ 高2）</p> <p>授業者 岡崎 紘（高） 伊藤 浩介（中）</p> <p>場 所 2-A教 室</p>	<p>☆グローバル英語グル ープ</p> <p>外国語（活動） （小4・中3・高2）</p> <p>授業者 山田 善紀（中） 望月 浩平（高） 北村 創（小） 谷 貞美（小）</p> <p>場 所 多目的室</p>			
14：30 ～15：00	第二部	<p style="text-align: center;">総 会</p>				
15：10 ～16：40	第二部	<p style="text-align: center;">研究討議</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; vertical-align: top;"> <p>講 師 若吉 浩 二 大阪経済大学 教授</p> <p>討議テーマ 保幼小中高・地域で、 子どもの体力をどの ように向上させるの か</p> <p>記録者 小澤 央（中）</p> <p>同会者 舟木 耕平（小）</p> </td> <td style="width: 25%; vertical-align: top;"> <p>講 師 西山 晃 一 能勢観光物産センター支 配人</p> <p>討議テーマ 地域や校種間での 連携や学び合いの工 夫について</p> <p>記録者 由比浜 有恒（高） 佐藤 美代子（小）</p> <p>同会者 岩谷 翔太（中）</p> </td> <td style="width: 25%; vertical-align: top;"> <p>講 師 増田 ゆ か 豊能町立光風台小学校校 長</p> <p>討議テーマ 「わかりません」で 終わらせないための 言語活動の工夫につ いて</p> <p>記録者 横山 孝雄（小）</p> <p>同会者 生島 健斗（高）</p> </td> <td style="width: 25%; vertical-align: top;"> <p>講 師 吉川 明 高槻市立第十中学校 校長</p> <p>討議テーマ 英語コミュニケーション能力の育成を目的とした、小・中・高 一貫した系統的な指 導方法とは</p> <p>記録者 峰見 光恵（小）</p> <p>同会者 井田 周子（高）</p> </td> </tr> </table>	<p>講 師 若吉 浩 二 大阪経済大学 教授</p> <p>討議テーマ 保幼小中高・地域で、 子どもの体力をどの ように向上させるの か</p> <p>記録者 小澤 央（中）</p> <p>同会者 舟木 耕平（小）</p>	<p>講 師 西山 晃 一 能勢観光物産センター支 配人</p> <p>討議テーマ 地域や校種間での 連携や学び合いの工 夫について</p> <p>記録者 由比浜 有恒（高） 佐藤 美代子（小）</p> <p>同会者 岩谷 翔太（中）</p>	<p>講 師 増田 ゆ か 豊能町立光風台小学校校 長</p> <p>討議テーマ 「わかりません」で 終わらせないための 言語活動の工夫につ いて</p> <p>記録者 横山 孝雄（小）</p> <p>同会者 生島 健斗（高）</p>	<p>講 師 吉川 明 高槻市立第十中学校 校長</p> <p>討議テーマ 英語コミュニケーション能力の育成を目的とした、小・中・高 一貫した系統的な指 導方法とは</p> <p>記録者 峰見 光恵（小）</p> <p>同会者 井田 周子（高）</p>
<p>講 師 若吉 浩 二 大阪経済大学 教授</p> <p>討議テーマ 保幼小中高・地域で、 子どもの体力をどの ように向上させるの か</p> <p>記録者 小澤 央（中）</p> <p>同会者 舟木 耕平（小）</p>	<p>講 師 西山 晃 一 能勢観光物産センター支 配人</p> <p>討議テーマ 地域や校種間での 連携や学び合いの工 夫について</p> <p>記録者 由比浜 有恒（高） 佐藤 美代子（小）</p> <p>同会者 岩谷 翔太（中）</p>	<p>講 師 増田 ゆ か 豊能町立光風台小学校校 長</p> <p>討議テーマ 「わかりません」で 終わらせないための 言語活動の工夫につ いて</p> <p>記録者 横山 孝雄（小）</p> <p>同会者 生島 健斗（高）</p>	<p>講 師 吉川 明 高槻市立第十中学校 校長</p> <p>討議テーマ 英語コミュニケーション能力の育成を目的とした、小・中・高 一貫した系統的な指 導方法とは</p> <p>記録者 峰見 光恵（小）</p> <p>同会者 井田 周子（高）</p>			
<p>●12月24日 ドイツ訪問した高校生による小学校教職員研修での報告会実施</p>						

平成 28 年の開校時より小学校教員によるグローバル能勢実践報告会を学期に 1 回継続し、第 11 回目を迎える。小学校 1 年生担任から 6 年生担任まで、その学期で行われたいわゆる「能勢のふるさと学習実践交流」の場で、ドイツで学習した森林教育、再生可能エネルギー等について高校生が報告。次なる高校生と小学生のコラボ授業の内容を考えた。2 月の森林授業につなげた。

●2 月 18 日 小学 5 年生 能勢の森林の利用を考える授業を実施（社会・国語・総合的な学習）

【単元】 ①わたしたちの生活と森林 6 時間
②環境を守るわたしたち 5 時間
能勢町の現状に引き寄せてオリジナルに授業を計画する。

【関連科目】 提案文を書こう 6 時間

【学習の流れ】 (①の単元 6 時間の簡単な流れ)

- つかむ** 日本の森林はどのようになっているのでしょうか。
天然林と人工林のちがいを考え、学習問題をつくり、学習計画を立てよう
- 調べる** 日本を代表する天然林である白神山地はどのようなところでしょうか。
林業で働く人は、どのように森林を利用しているのでしょうか。
森林には、どのような働きがあり、森林資源はどのように利用されているのでしょうか。
- まとめる** これまでの学習を振り返り、学習問題についてまとめましょう。

【今回の取組について】 (②の単元の最初の 2 時間分)

目的

- ・日本の森林や林業の現状や課題を知り、能勢町の森林の現状と林業の課題を知る。
- ・森林組合や能勢町の担当職員から森林の現状と取組、将来に向けて展望を聞く。
- ・地元田尻地区菊炭協議会の取組とクヌギの森づくり、どんぐりの苗木などの活動を知る。
- ・能勢高校生から再生可能エネルギー、ブリロン市の取組から学んだことを小学生とともに考える。
- ・小学生が能勢町の森林に関わる取組を知り、自分たちの考えを整理して、自分たちの町への提言書をまとめる。
- ・能勢町長にもその提言書を伝え、町長からコメントをもらう

日時

令和 2 年 2 月 18 日（火）8：25～10：00

講師

森林組合花崎支店長、能勢町産業振興係谷係長、能勢菊炭協議会小谷会長、能勢高校生 4 名

場所

全体会 多目的室
分散会 3 つの教室（5 の 1 能勢高）（5 の 2 小谷さん）（多目的 谷さん・花崎さん）

【学習の内容】

- ・全体会（30 分） 能勢町の森林の現状についての話（花崎支店長）
- ・分散会（40 分） テーマ：能勢の森の現状と今後の夢
- ・C グループ 谷係長
木の駅プロジェクト、ゼフィルスの森づくり、妙見山のブナ林など森林行政一般等
- ・B グループ 小谷会長
菊炭協議会の取組、都市農村交流の植樹会、グリーンウッドワーク、どんぐりの森づくり
- ・A グループ 高校生
再生可能エネルギー公開講座、ドイツ研修、帰国後の取組紹介、今後の展開

【事後の学習】

- ・能勢町の森林や環境についての学習をまとめ、課題を話し合い、自分なりの意見をもつ。
- ・今後の能勢町の森林についての考えを文章にまとめ、提言する。→3 月 13 日 町長へ提言
- ・学びの丘に 5 年生が植樹をする。（どんぐりのなる木を植える）→3 月 4 日 9：15～

④ 高校生による保・幼・小学生や高齢者への現場体験活動を継続することで、高校生が大学生にならないとできないような福祉体験や教育体験などに関して高校時代に経験できることで、将来の仕事へのイメージが持ちやすく、高校生のキャリア形成に直接的に寄与できる。

●能勢小中学校の学校運営協議会に設置された行事・イベント部の活動として

- ・花いっぱいプロジェクト
能勢高校生と小学校 2 年生によるパンジーの種まき（9/9）
能勢高校生と小学校 2 年生と地域住民によるパンジーの苗移植（10/21）
小学校 2 年生による町内 10 福祉施設への育てたポットの配布（11/28）

高校生と小学生が福祉施設の方々に出荷するパンジーを一緒に育てる活動を通じて、小学生と高校生がともに時間を過ごすことで、斜めの関係ができ、人間関係が豊かになれた。障がいのある方や独居の高齢者の生きがいづくりの一助になる体験であった。

⑤中学生職場体験学習と能勢小中学校の学校運営協議会活動をつなぐスタートとして、今年、中学校の首席教員も同協議会に参加するようにした。年間 6 回程度の会議ではあるが、教職員では開拓でき

ない職種や農業や畜産業、林業など第1次産業に目を向ける中学生が出てくることを期待しながら、能勢地域で素敵な人たちを紹介し続けている。能勢町長が町の元気な方々に観光文化課の課長とともにインタビューしながら回り、そこでの対談をまとめ、町のホームページに掲載している。このインタビューを受けた方々との中学校の職場体験で出会いを作れないかを模索している。また、中学校教員が地域の方々と交流し、職場体験以外にも能勢町をフィールドとした学びの資源（人的・物的）が活用できていない。

●12月19日・20日 食育ボランティアと能勢に伝わる「郷土料理」を作ろう（中学校家庭科）

今回、能勢小中学校の学校運営協議会の場で、中学校家庭科で能勢に伝わる「郷土料理」を実際の授業を実施した。同協議会が橋渡しとなって、能勢町の食育ボランティアから作り方を教えていただいた。

今後、中学校と地域をつなぐために、教科での関わりから中学校での総合的な学習の時間における課題発見・課題解決ができるような学びのスタイルが構築できるように今後もプラン提供を行っていききたい。そのことにより、学びの深まりが豊かさへと発展し、教材への見方・考え方が変わり、より自立して社会を生き抜く力を育めるようになることが期待できる。ひいては、まちづくりに関わるような生徒を輩出し、能勢町の少子化に歯止めをかけていくことが期待できる。

⑥保幼小の体力づくり推進事業「能勢っ子！かけっこ！日本一！」の実施では、のせ保育所・みどり丘幼稚園・小学校の幼児・児童の体力の向上と肥満の解消など健康増進の効果が期待できる。毎朝、実施することによる「継続性の大切さ」、みんなで取り組むことによる「一体感の創出」など、やればできることを実感することで、自信につながり、自尊感情も高まることが期待できる。また、朝苦手な児童生徒が、朝運動を継続することで、脳を活性化する効果が期待でき、学力の向上につながる可能性もある。また、ホームページにも動画をアップすることで、家庭の協力を得ることもプラス効果をもたらすであろうと期待している。

●体力づくり事業「能勢っ子！かけっこ！日本一！」 4月からの取組は以下のとおり

4月2日	能勢町 「体力向上研修」	能勢ささゆり学 園	大学	若吉浩二(人間科学部長)
			能勢町	保育所(4名) 幼稚園(2名) 小学校・中学校全教職員 町教委…川本主幹
4月4日	オノマトペ体操 撮影	町内各所	大学	若吉浩二
			能勢町	上森町長、加堂教育長、町教委職員 保・幼・小・中学校教員等
4月17日	オノマトペ体操 第1版完成			保育所・幼稚園・町教委で確認作業 開始
4月13日	のせ保育所 保育所説明会にて 体操を実施 ※前年度より取組	保育所		
5月15日	スポーツテスト支援	能勢ささゆり学 園	大学	若吉浩二・九鬼靖太・学生12名
			能勢町	小学校高学年教員 中学校教員、町教委
5月8日	小学校全校集会でオノマト ペ体操 開始			小学校 月・火・木・金 朝の会で実 施

5月25日	のせ保育所 うんどろあそび オノマトベ体操 披露			保育所運動会「うんどろあそび」で 保護者地域へ紹介
6月8日	小学校運動会で オノマトベ体操披露			
6月23日	能勢版 オノマトベ体操 完成			
6月中旬	能勢町 HP 能勢ささゆり学園HP 大阪経済大学HP 掲載			
7月29日	令和元年度第1回能勢町 体力向上ミーティング	保育所		保育所、小学校、中学校体力向上担 当者
8月22日	水泳遊び支援 ※子どもの居場所づくり事 業 110名参加	能勢ささゆり学 園	大学	齊藤裕士(学生部 部長) 白神康裕(経営企画部 広報課) 水泳部学生6名、能勢高校生、町教 委、町職員
9月4日	連携に関する打合せ	大阪経済大学	大学	山本俊一郎(学長) 高濱悠紀(経営企画部広報課 課長) 大塚好晴(教育・研究支援・社会連携 部 図書館・研究所事務課 課長) 加藤正憲(経営企画部 部長) 若吉浩二
			能勢町	加堂教育長・川本主幹
10～11月	50m走、持久走、シャトルラ ン支援(測定)	能勢ささゆり学 園 保育所		※クラスごとに測定 ※9/25 町教委がペースメーカー
10月3日	授業研に関する 打ち合わせ	大阪経済大学	大学	若吉浩二
			能勢町	本村好史・三宅有貴・辰巳明子 (能勢ささゆり学園教職員) 川本主幹
11月1日	小中高一貫教育 研究発表会	能勢ささゆり学 園	大学	若吉浩二
			能勢町	町内保健体育科教員 小学校体育担当者 辻課長・川本主幹
11月9日	陸上教室能勢っ子！かけ っこ！ランRUNラン！160 名参加	能勢ささゆり学 園	大学	若吉浩二・九鬼靖太・竹澤健介・高濱 悠紀・齊藤裕士・学生10名 能勢町スポーツ推進委員 能勢町体育連盟
11月	プレス発表	大阪経済大学		

12月24日	今後の連携に関する 打ち合わせ	大阪経済大学	大学	黒正 洋史 (教育・研究支援・社会連携部 部長) 高濱悠紀 (経営企画部広報課 課長) 大塚好晴(教育・研究支援・社会 連携部 図書館・研究所事務課 課長) 若吉浩二(人間科学部 学部長)
			能勢町	矢立(総務課) 辻 新造・川本重樹
12月28日	統廃合でバス通学増加 始業前に体操 体力回復	能勢小学校		読売新聞夕刊掲載
12月30日	スクールバスで体力ピ ンチ? 朝体操で成果	能勢小学校		朝日新聞朝刊掲載
2月18日	第2回能勢町 体力向上 ミーティング	ささゆり学 園	能勢町	保育所…植村、幼稚園 小学校…横山・舟木 中学校…遠藤・本村 町教委…川本
2月20日	陸上出前授業	ささゆり学 園	大学	若吉浩二・九鬼靖太・竹澤健 介
3月10日	第3回能勢町 体力向上 ミーティング	ささゆり学 園	能勢町	保育所・小学校・中学校 町教委
3月25日	オノマトペ体操 撮影	町内各所	大学	若吉浩二 (人間科学部 学部長 人間科学 部教授)
			能勢町	未定

⑦ 標本活用等事業と連携しながら、学校と地域が協働活動できる機会をつくるツールとして、8月5日から23日までの夏休み期間を利用して、生涯教育課と連携し、「むし?のせ?昆虫から見た能勢の自然展」を生涯学習センターで開催した。来場者数が550人を超えるイベントになり、町内はもちろんのこと、町外からも参加があり、大変高い評価をいただいた。期間中、生涯教育課職員や図書室職員等が自ら能勢の生き物を集め、毎日餌をやり、子どもから大人まで生物の不思議や多様性を楽しむことができた。

また、10月7日から20日まで、メルヘンリエこさん・公益財団法人大阪みどりのトラスト協会・能勢小学校PTA 教養委員会・能勢町PTA協議会・能勢ささゆり学園・能勢町教育委員会主催、能勢町環境創造部の協力の下、能勢ささゆり学園内図書室を利用して、「メルヘンリエこの能勢の生きもの作品展」を企画した。児童生徒のみならず、地域の方々に来場いただけるように、小学校学習発表会(10/15)、中学校学習発表会(10/19)が開催される期間を利用し、児童生徒を含め保護者等、多くの方々に来場していただいた。

標本活用等事業は、学校教育課所管の事業としているが、生涯教育課、地域振興課とつながる要素が数多くある事業でもある。全国生物多様性ナンバーワン自治体として脚光を浴びている側面を活かしながら、標本活用等事業と日頃の理科授業、生活科授業、総合的な学習との接点を持つていくために、学校施設内のメモリアルホールにおいて「学校博物館」を整備している。9月から能勢町森林組合から調達した木材を使い、また、そこに展示される引き出しやケース、棚などは、思い出深い旧小中学校の理科室などにあったものを運び込んで新たに塗装を施し、ニス塗りリニューアルした。能勢で見られる木々コーナーでは、実際に20種類の広葉樹を手取る

ことができ、樹皮や切り口が観察できる仕掛けとなっている。樹木と生き物と里山の特徴がよくわかるように工夫する。クヌギは菊炭、ケヤキは「能勢町の木」、クリは「銀寄」で能勢発祥の栗。能勢の暮らしを支える特産物でもある。標本箱がスライド式で5セット掲示できるコーナーも新設。「私の発見コーナー」ができ、児童生徒の作品や自主学習が掲示できるコルクボードが用意され、教室にも移動可能な形で、運用できる工夫がされている。能勢の特産物「三白三黒（さんぱくさんぐろ）が実際に手に取って触れることができる仕掛けにもなっている。2面のうち1面は、「能勢の自然と文化」を伝える。もう1面は「能勢の四季の生き物」を伝えるコンセプト。ドイツ箱に丁寧に整理した標本箱を説明文とともに掲示する。その他、秘密のワゴンでは、旧学校のマップケースを活用して、能勢町で見られる鳥の羽、葉っぱやドングリ、河原の石などを引き出しの出し入れにも耐えられるような素材を集めて展示した。令和2年2月末をもって完成した。（「学校博物館資料」を参照）

今後、コミュニティ・スクールとして真の意味での「地域とともにある学校」にしていくためには、町民にとって、この学校を「おらが村の学校」と思えるような親近感あふれる存在にしていく必要がある。学校博物館と校地内の学びの丘、展望棟などが、能勢町の「生物多様性」を学べる「ネイチャー・ミュージアム・スクール」となるように、今後も、能勢を愛するNPO法人や地元の方々、学校関係者、行政関係者等をつなぐアイテムとして学校博物館を活用していきたい。

- ⑧ 6月19日、近江正隆さんをお迎えして5つの対象者に対する本事業の中核をなす講演会と熟議を開催した。

1つ目は、能勢町若手職員対象の講演会「能勢町職員と考える次代へつなぐ農山漁村のまちづくり・ひとづくり」では、若手職員の心に届く内容で以下のような感想があった。「子育て世代に財産をあてるのではなく、子どもたちに“地域”の良さを伝えることで“心を育み”地域に根付かせていくというのは現在の能勢町に必要なことだと感じました。また、地域の魅力を外から発見してもらうこと、協力して新しいものを作っていく（古いものに付加価値をつける）ことの大切さも参考にしていきたいと思いました。」

2つ目は、「高校生のみなさんに伝えたいこと」というテーマで、能勢高校生2・3年生全員と地域住民対象に講演会を開催した。講師より高校生に次のようなあったかい問いかけと熱いメッセージが送られた。「自分の道が分からなくても良い。大事なのは、悩み続けること。ワクワクするかどうか。自分の心に問い続けること。考えることを止めたら、成長は止まる。20歳、30歳、40歳、50歳、70歳になっても問い続けないと成長は止まる。」。10月、この話を聞いた能勢高校生1名が浦幌町での農村ホームステイに挑戦し、貴重な体験ができた。

3つ目は、「未来」につなぐひとづくり・まちづくりを考える～子どもたちが夢と希望を抱けるまち～への挑戦～という演題で、地域住民を対象に講演会を行った。能勢町の未来につなぐために「子どもたち」のために、社会総がかりでどんな活動をしていけばいいですか？という問いに以下のような感想が寄せられた。

- ・能勢の中で採れた物で料理する。（自分たちで育てる、育てた野菜・果物を使う）他の町の学生と関わって、地域の取組を共有する。（20代・学校教職員）
- ・農家に宿泊し、畑で収穫した野菜で、料理を教えてもらい作る体験。（50代・地域住民）
- ・能勢高校農場を使って、協働イベント、小中高大生による地域探究学習から親元案内。（60代・学校教職員）
- ・「小学生・中学生による能勢町内宿泊体験支援」は将来できたらいいなとずっと考えていました。（50代・地域住民）
- ・浄瑠璃や菊炭といった固有イメージではなく、“まるごと能勢町”のような体験メニューを一般家庭にホームステイして、中・高・大の生徒たちに体験。農業、林業、手伝い、散策等（50代・地域住民）
- ・中学生の提案した郷土料理、地域の食材を活かしたメニューを高校生が調理・実践し、町のイベントなどで販売。文化発表会、職業体験、調理実習、小中高、いろんなところが関われるなと思いました。（20代・学校教職員）
- ・能勢には高校以上の教育機関がないので、大学等と協力した取組ができれば、小中高生が「大学とは何か、どんなところか」を知ることができるのでは。（30代・地域住民）

4つ目として、7月18日には、近江正隆さんと本間莉恵さんを迎えて、「地域のこと考えよう！」という演題で、中学2年生を対象に講演会とワークショップを行った。職場体験学習の事前学習として取り組んだ。なぜ地域が必要なのか？自分たちが生きていくために必要なものやこと（医療・福祉・産業・建設・水道・学校（教育）住居など）は、町役場を中心とした地域が支えてくれています。そしてそこには、自分たちが払った税金が使われている。ぼくたちはどんなに頑張っても、1人では生きていけない。社会が必要。地域が必要。そして社会・地域がきちんと未来に繋がっていくことが大事。そのためには、未来の担い手である若者・子どもたちが地域でワクワクすることやワクワクする環境が地域にあることが大事。ワークでは、自分たち（中学生のみんな）がワクワクすることを考えてみよう！ただワクワクするだけじゃなくて、能勢が抱えるたくさんの問題（今回はテーマ：人口減少）の解決につながるワクワクすることを考えてみ

よう！中学生から出てきた意見は以下のとおりである。

- ・ショッピングモールや遊園地
 - ・新しく来た人（Uターン）に優しくしてほしい。
 - ・自然を活かした公園
 - ・交通網を広げる、充実させる。
 - ・「とんど」「くりまつり」を大事にする。
 - ・町が一丸となった、イベント。
 - ・地域の人と活動する時間と回数を増やしたら楽しいと思う。
 - ・ちびっ子からお年寄りまでが楽しめる場所、イベント。
- これらの気持ちを今度の取組に活かしていく素地作りができた。

5つ目は、「未来」につなぐひとづくりまちづくりを考えるために、以下のような企画を行った。対象は小中高教職員・教育委員会職員・学校運営協議会委員・地域住民。

<全体の流れ>

- (1)近江さんからの話
- (2)ワークショップ
 - ①アンケートゲーム
(高校を卒業した時に身につけておいてほしい力)
 - ②グループワーク発表
(学校と地域の協働で「高校生像に向けて何ができるか?」
※小中時代からできることも大歓迎！)

<参加者からの感想>

- ・話も良かったのですが、地域の人が思っている事と、学校が思っている事、また小学校、中学校、高校に通っている保護者が、能勢が良くなる事を思っているが、意見がまとまらない現状があるといます。何年かけてもいいから、こういう意見交流は必要だと思います。(保護者・30歳代)
- ・参加できる楽しい講演会でした。ただ…総論、ビジョン論を出すだけでなく、能勢の未来像の決定！共通確認！そのためにだれが何をするのか具体的各論に及んでほしい。たぶん、そうなると分断分裂するので、「子どもにとっての未来」ということで、教育と結びつけると1つになれる。教育委員会がするのも1つかな。(近江さんが言ったように)(地域住民・60歳代)
- ・能勢高生の問題、、、は、地域の子育て上での問題とリンクしていると思った。(高校になって出てきた問題ではない)そういう意味においても地域として、学校と関わって子育てをしていく必要があると感じました。(地域住民・50代)

- ⑨ 12月15日 四柳千夏子文部科学省CSマイスターとの交流
12月16日 地域とともにある学校づくりフォーラム 東京への参加
続いて、横浜市東山田中学校のやまたらう本部への視察

12月15日、学校運営協議会会長、本事業加配教員、事務局教育員会指導主事3名での研修。本町学校運営協議会の学識経験者である上田真弓さんのご紹介で、三鷹の四柳さんとの交流を図り、能勢町の課題、今後の方向性、先進地の取組紹介、学校運営協議会の委員改選、学校評価のあり方など、直接、お話を聞く機会があり、能勢の課題認識が明確化された。

翌16日は、上記フォーラムに参加。3人がそれぞれ違うブースでCSマイスターの講義を直接伺い、全国の担当者とも交流を深めることができた。特に、河内長野市のCSマイスターの大谷裕美子さんのお話を聞き、会長自身が、美加の台小学校への視察を熱望され、コンタクトをとることとなり、視察を実現することができた。

午後に訪れた東山田中学校へ訪問。以下のことを学ぶ。

学校運営協議会として学んだこと

- ・学校運営協議会において、ミッション・課題の共有を大切にされている。
- ・委員の選定が大切。
- ・当事者意識をもって。
- ・「説明」「言いつばなし」ではなく、「協議」の場。
- ・教職員、生徒会等との懇談の効果。
- ・時には多くの当事者による熟議。
- ・司会者よりファシリテーターを。

地域学校協働活動として学んだこと

- ・テーマでつながる。地域組織とテーマコミュニティ。
- ・コーディネーターがつなぐ。地域の活きた情報は人が運ぶ。情報源情報が大切。
- ・地域連携担当教職員と地域コーディネーターの連携。
- ・イコールパートナーとして。「一緒にやってみましょう」を合言葉に。
- ・プロセスを共有。
- ・協働とは、異なった立場の人が、同じ目的のために対等な立場で活動すること。

東山田中学校にとってのCSの成果 今後の能勢の指標へ

- ① 学校運営面から・・・
 - ・学校への理解が深まった。
 - ・多彩なアドバイスを学校運営に反映できた。
 - ・問題が起こった時、タイムリーに対処できた。
 - ・〇か×ではない難しい判断の時、バックアップができた。
 - ・学校運営に継続性が高まった。
- ② 教育内容面から・・・
 - ・教育内容が充実した。
 - ・地域の方から、学び、地域に出て活動することが増えた。
 - ・「社会に開かれた教育課程」を地域とともに実現できた。
- ③ 学校という場を核に「まちづくり」
 - ・地域の企業や人がつながった。
 - ・いざ！という時、頼りになる信頼関係ができた。

- ⑩ 2月6日 大阪府河内長野市立美加の台学園のゆめ☆まなびネットを訪問。学校運営協議会委員視察研修。

委員8名で参加。美加の台防犯協力見守り隊、美加の台キラリアップ大作戦、ボランティア登録者研修交流会、ちびボラさんの活用、赤ちゃんとのふれあい授業、食育切り干し大根プロジェクト、おやGの会、美加の台学園祭、体力向上員会のなわとびGO！等の実践をうかがった。平日の10時、13時とわずか15分間のなわとびチャレンジの時間に、地域の方々が自主的に参加し、児童の励ましや回数記録などを支援する。実際に訪問した本町の委員も、子どもたちと触れ合う貴重な体験ができ、自然体で関わる地域学校協働活動の一端を垣間見ることができた。CSマイスターの大谷さんの存在は、大変大きく、今後能勢町が進めていきたい理想的な実践に触れて、委員各自が大きな刺激を受けた。今後につながる貴重な体験と理論を学ぶことができた。